三菱UFJリサーチ&コンサルティング

2015 年 4 月 22 日

調査レポート

グラフで見る東海経済（2015 年 4 月）

【今月の景気判断】

東海経済は、持ち直しの動きがみられる。生産は、14 年 6 月を底に緩やかに持ち直してきたが、足下で一服している。輸出は、2 月の実質輸出が3ヶ月ぶりに大きく減少した。雇用は、失業率が低下、就業者数が増加する中で、有効求人倍率が改善を続けるなど持ち直しの動きがみられるが、常用雇用指数は全国に比べて弱い動きが続いている。個人消費は、賃金面からの下支え効果もあって、駆け込み需要の反動減が一巡した後、横ばい圏で推移している。設備投資は、横ばい圏で推移しているが、製造業は増加している。住宅着工、公共投資は横ばい圏で推移している。先行きについては、生産は、自動車が横ばい圏で推移する中、一般機械などで持ち直しが続くと見込むが、電子部品・デバイスなどで在庫が高水準となっており、全体としては、横ばい圏での推移が見込まれる。輸出は、海外景気の回復が緩やかな中、横ばい圏での推移が見込まれる。消費は、名目賃金が持ち直している中で、物価の落ち着きを背景に緩やかに持ち直すと見込まれる。公共投資は横ばい圏の推移が続き、設備投資は持ち直してこよう。東海経済は、持ち直してくるが、ペースは緩やかにとどまると見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	→	輸出	→	☁	→
個人消費	→	☁	↗	輸入	↗	☁	↗
住宅投資	→	☁	→	生産	→	☁☀	→
設備投資	→	☁	↗	雇用	→	☁	→
公共投資	→	☁	→	賃金	↗	☁	↗

（注）1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

・世界景気～米中および新興国景気の先行き、米欧の金融政策、国際情勢に伴う原油・為替への影響
・企業活動～足下で一服してきた生産の動向、高水準となった在庫の動き、新興国向け輸出動向
・政策～安倍政権の経済政策・財政再建の行方
・家計～円安と原油安の先行きと消費者物価に与える影響。実質賃金と消費の動向

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社
調査部　主任研究員　塚田裕昭　　副主任研究員　杉本宗之
〒105-8501　東京都港区虎ノ門 5-11-2／〒461-851　名古屋市東区葵 1-19-30
TEL：03-6733-1070／052-307-1106

【各項目のヘッドライン】

項目	3月のコメント	4月のコメント	ページ
1．景気全般	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	3～4
2．生産	一部に弱い動きがみられるが、緩やかに持ち直している	持ち直しが一服している	5～7
3．雇用	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる	7～8
4．賃金	持ち直している	持ち直している	9
5．個人消費	駆け込み需要の反動減が一巡したが、横ばい圏で推移	駆け込み需要の反動減が一巡したが、横ばい圏で推移	10～11
6．住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	12
7．設備投資	横ばい圏で推移しているが、製造業は増加している	横ばい圏で推移しているが、製造業は増加している	13～14
8．公共投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
9．輸出入	輸出、輸入ともに持ち直しの動き	2月の輸出は大幅に減少、輸入は持ち直し	15～16
10．物価	消費者物価は消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化	消費者物価は消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化	16
11．金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	17
12．倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は減少、負債総額は増加	17

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）
（＊）参考資料：「グラフで見る景気予報」　→　http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan

【前月からの変更点】

2．生産

2月の東海3県の鉱工業生産指数は、前月比－4.3%と4ヶ月ぶりに大きく減少した。

9．輸出入

2月の実質輸出（季調済）は、前月比－10.0%と3ヶ月ぶりに大きく減少、実質輸入（季調済）は、前月比＋5.0%と3ヶ月連続で増加した。

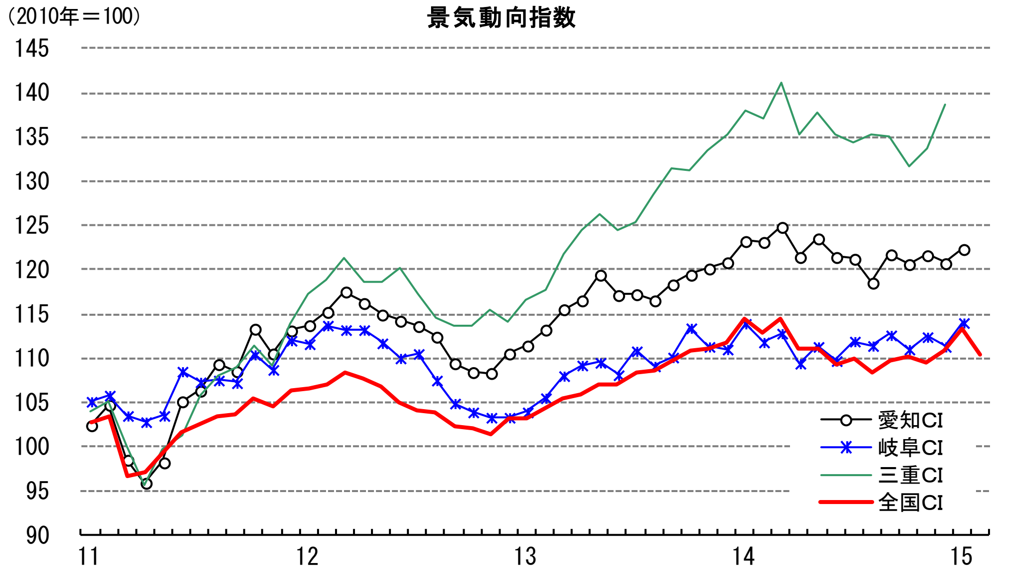
【主要経済指標の推移】

	経済指標	14 1-3	14 4-6	14 7-9	14 10-12	15 1-3	14 10	14 11	14 12	15 1	15 2	15 3
景気全般	景気動向指数　愛知（ＣＩ、一致指数）	123.8	122.2	120.6	121.1	56.1	120.7	121.7	120.8	122.4		
	岐阜（ＣＩ、一致指数）	112.9	110.2	112.1	111.7	45.3	111.1	112.5	111.4	114.1		
	三重（ＣＩ、一致指数）	138.8	136.0	134.9	134.7	49.3	131.8	133.7	138.7			
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	56.1	45.3	49.3	44.3	49.8	44.5	41.2	47.3	47.8	50.6	51
	（先行判断DI）	40.5	51.8	50.9	46.4	51.2	45.5	45.6	48.0	49.6	52.6	51.3
	短観業況判断ＤＩ（大企業製造業）	28	12	9	13	18	6	<6月予想>				
	（中小企業製造業）	13	0	-6	4	4	0	<6月予想>				
	（非製造業）	17	9	3	5	10	6	<6月予想>				
	法人企業統計経常利益　製造業(兆円)	0.5	1.0	0.9	1.0							
	非製造業(兆円)	0.1	0.3	0.3	0.2							
生産	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	5.6	-5.1	2.5	0.3		-2.8	1.7	1.3	2.9	-4.3	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	3.6	-2.7	0.3	0.4		-3.1	0.5	2.2	2.3	-4.8	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	2.7	1.2	3.0	7.0		2.4	8.3	3.1	3.3	1.1	
	鉱工業生産　輸送機械（　〃　）	4.1	-5.1	-2.7	2.7		-2.8	7.2	-4.3	2.1	-4.5	
	一般機械（　〃　）	9.0	-3.9	3.3	0.1		-0.9	-3.5	2.5	11.2	-5.4	
	電子部品・デバイス工業（〃）	17.2	-3.8	12.2	4.6		-1.8	-2.8	8.9	-2.2	0.3	
	プラスチック製品工業（〃）	6.2	-8.3	-3.8	1.4		-3.1	1.3	2.1	2.0	-6.5	
	化　学（　〃　）	-5.7	-13.3	5.1	0.8		-2.9	1.1	-6.0	11.3	-3.2	
	電気機械（　〃　）	3.6	-4.0	0.3	4.2		2.5	-0.3	-3.0	5.2	-1.4	
	鉄　鋼（　〃　）	-2.1	-0.4	-0.5	3.1		2.5	6.0	-4.6	2.2	-9.1	
	金属工作機械受注　総受注（億円）	340.0	354.4	383.1	430.3		423.4	417.6	449.8	382.1	393.1	
	国内受注（億円）	112.5	111.0	127.7	146.0		141.1	141.2	155.6	117.8	134.1	
	海外受注（億円）	227.5	243.4	255.4	284.3		282.3	276.4	294.2	264.3	259.0	
	大口販売電力量	5.1	1.0	-0.4	-0.6		-2.1	-0.4	1.0	-2.0	-2.4	
雇用	完全失業率（原数値、%）	2.7	3.0	2.6	2.8							
	就業者数（原数値、万人）	759	777	784	780							
	常用雇用指数　愛知	100.1	101.0	101.1	101.1		100.9	101.1	101.3	100.5		
	岐阜	97.7	98.1	97.8	97.5		97.4	97.4	97.6	97.8		
	三重	97.2	97.5	97.5	96.9		96.8	96.8	97.0	97.7		
	有効求人倍率　愛知（季節調整値、倍）	1.5	1.6	1.5	1.5		1.51	1.51	1.53	1.55	1.55	
	岐阜（季節調整値、倍）	1.2	1.3	1.3	1.3		1.32	1.32	1.36	1.37	1.46	
	三重（季節調整値、倍）	1.2	1.2	1.2	1.2		1.21	1.25	1.28	1.28	1.30	
	新規求人倍率　愛知（季節調整値、倍）	2.3	2.4	2.3	2.3		2.29	2.30	2.33	2.38	2.25	
	岐阜（季節調整値、倍）	1.8	1.9	1.9	1.9		1.91	1.81	2.01	2.07	2.07	
	三重（季節調整値、倍）	1.8	1.8	1.7	1.8		1.81	1.83	1.88	1.84	1.81	
賃金	現金給与総額	0.4	0.6	2.8	0.3		-0.2	2.9	-0.8	1.8		
	所定内給与	0.2	0.0	0.5	0.5		0.0	0.6	0.8	0.6		
	所定外給与	5.1	4.0	3.7	2.4		2.9	2.2	2.2	6.7		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入　勤め先収入	-2.3	-11.1	-6.7	-1.2		1.8	-3.5	-1.5	0.4	-4.3	
	定期収入	-3.0	-5.6	-5.1	0.9		2.7	1.4	-1.2	0.3	-2.6	
個人消費	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出	8.5	-4.0	-2.5	0.3		-4.0	8.4	-2.5	-3.0	-10.6	
	百貨店販売額（名古屋市内）	23.3	-6.4	0.3	-1.0	-14.3	-2.7	0.2	-0.7	-2.1	-2.3	-25
	百貨店＋スーパー販売額	7.6	-2.6	1.9	1.7		-0.2	0.0	0.2	-0.1	-0.6	
	コンビニエンスストア販売額	0.1	-2.1	-1.2	-0.5		-0.4	-0.8	-0.2	0.5	-0.3	
	新車登録台数（含む軽）	20.3	-0.3				-9.7	-9.7	1.9	-21.0	-14.7	
	家電販売額	40.5	-14.0				-9.4	-5.2	-10.3	-19.0	n.a.	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値）	39.1	39.7	42.1	38.6	40.7	38.7	38.6	38.4	39.3	40.5	42.4
	トヨタ国内生産台数（季節調整値、万台）	28.4	28.0	26.3	26.8	25.6	26.4	27.0	27.1	25.1	25.6	26.0
住宅投資	新設住宅着工戸数（季節調整済年率換算、千戸）	106.4	104.2	98.6	94.1		93.4	92.1	96.7	98.8	98.1	
	（前年比、%）	-1.1	-9.5	-19.2	-20.5		-19.6	-25.0	-17.0	-12.4	-8.4	
設備投資	法人企業統計設備投資（製造業）	13.0	27.1	-3.1	14.8							
	（非製造業）	-13.0	-7.8	-14.3	-13.9							
	企業立地件数	—	—	—	—		21		18			
公共投資	公共工事請負額	-2.1	34.2	-6.6	-11.2	-13.9	-14.6	-8.2	-9.1	0.2	-15.7	-19.4
輸出入	実質輸出（季節調整値、07/12=100）	85.3	83.2	86.9	86.5		86.9	85.0	87.6	91.6	82.4	
	通関輸出（金額ベース、円建て）	7.3	-1.9	4.2	5.7		5.2	0.7	11.1	9.9	0.4	
	実質輸入（季節調整値、07/12=100）	103.7	97.6	98.0	95.5		95.6	94.3	96.5	100.3	105.4	
	通関輸入（金額ベース、円建て）	20.0	5.9	7.9	4.0		6.2	1.2	4.6	-6.4	-2.1	
物価	消費者物価指数（除く生鮮）	1.2	3.3	3.3	2.9		3.1	2.9	2.6	2.3	2.0	
	（食料及びｴﾈﾙｷﾞｰを除く総合）	0.9	2.3	2.4	2.2		2.3	2.2	2.1	2.1	1.9	
金融	国内銀行預金残高	2.4	1.7	1.9	2.4		2.3	2.2	2.7	2.7	3.2	
	国内銀行貸出残高	1.4	1.5	2.1	2.2		2.6	2.4	1.5	2.0	2.5	
倒産	倒産件数	-5.9	-11.3	-25.0	-19.9	-23.8	-30.1	-22.2	0.0	-44.3	-20.0	-4.9

（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

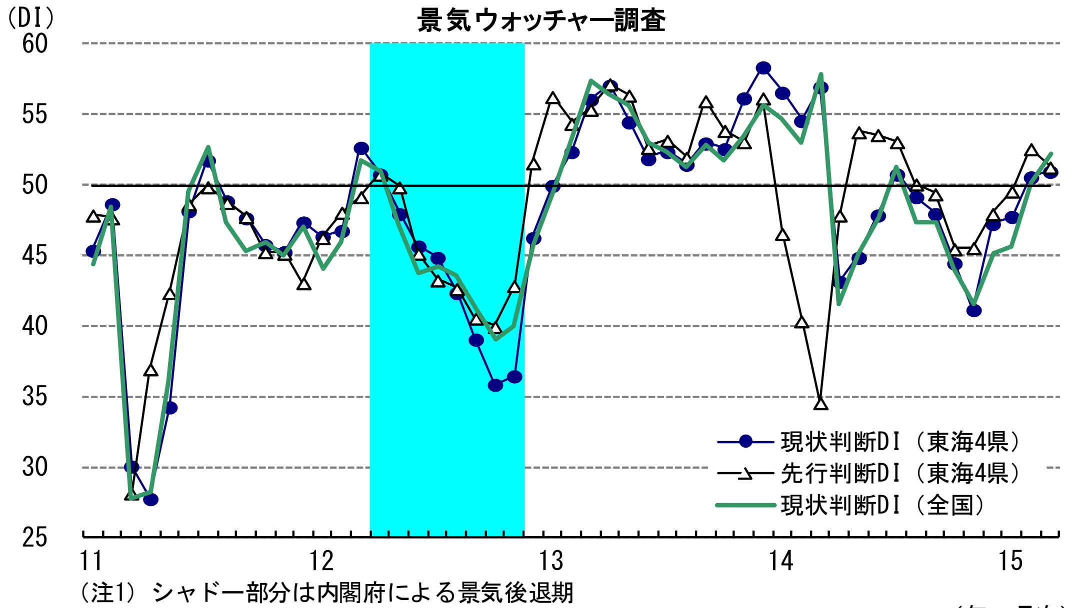
１．景気全般　～持ち直しの動きがみられる

○東海3県の景気動向指数・ＣＩ一致指数は、愛知県が1月に8系列のうち6系列がプラス寄与となり、前月差＋1.6ポイントと2ヶ月ぶりに上昇、岐阜県も同＋2.7ポイントと2ヶ月ぶりに上昇した。また、三重県は12月に同＋5.0ポイントと2ヶ月連続で上昇した。先行指数は、愛知県は2ヶ月連続で低下、岐阜県は3ヶ月連続で低下、三重県（12月）は3ヶ月連続で低下した。



（出所）内閣府「景気動向指数」、各都道府県「景気動向指数」

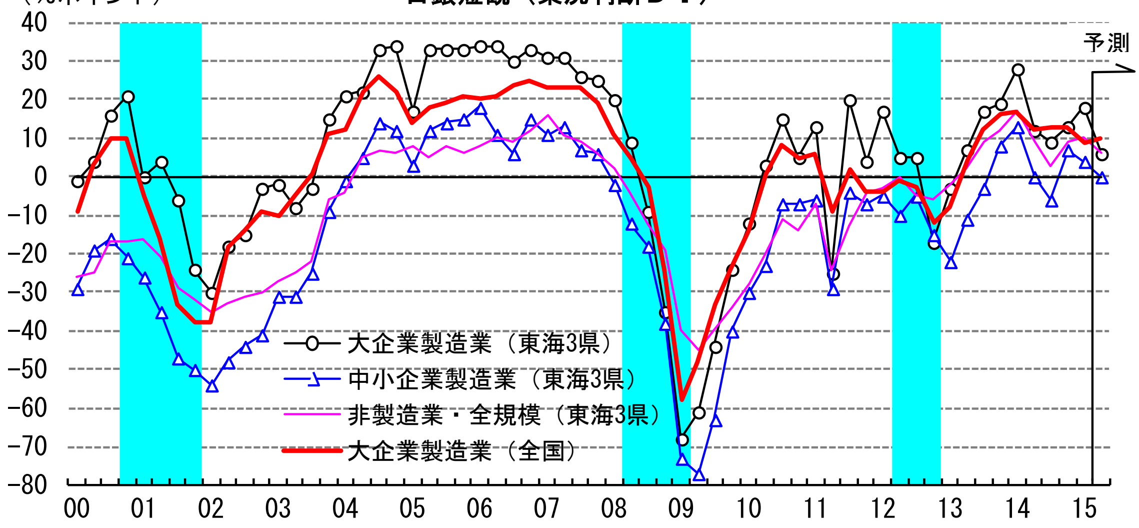
○3 月の東海 4 県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断ＤＩが前月差＋0.4 ポイントの 51.0 と 4 ヶ月連続で上昇した。景気の横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で上回り、景況感は昨年 11 月を底に持ち直している。家計動向関連の現状判断ＤＩは同＋0.8 ポイントの 48.0 と 4 ヶ月連続で上昇したが、50 を下回っている。先行判断ＤＩは、同－1.3 ポイントの 51.3 と 5 ヶ月ぶりに低下した。



（注1）シャドー部分は内閣府による景気後退期
（注2）2012年4月～11月の景気後退期は当社による推定
（注3）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡
（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」

○日銀短観 3 月調査では、東海 3 県の大企業製造業の業況判断ＤＩ(「良い」－「悪い」)は＋18 と、前回12 月調査から 5 ポイント上昇、中小企業製造業は 4 となり前回から 3 ポイント低下した。また、非製造業（全規模）は、前回より 1 ポイント上昇の＋10 となった。業況判断ＤＩの 6 月予測は、大企業製造業は＋6、中小製造業では 0、非製造業（全規模）は＋6 と、いずれも悪化が見込まれている。

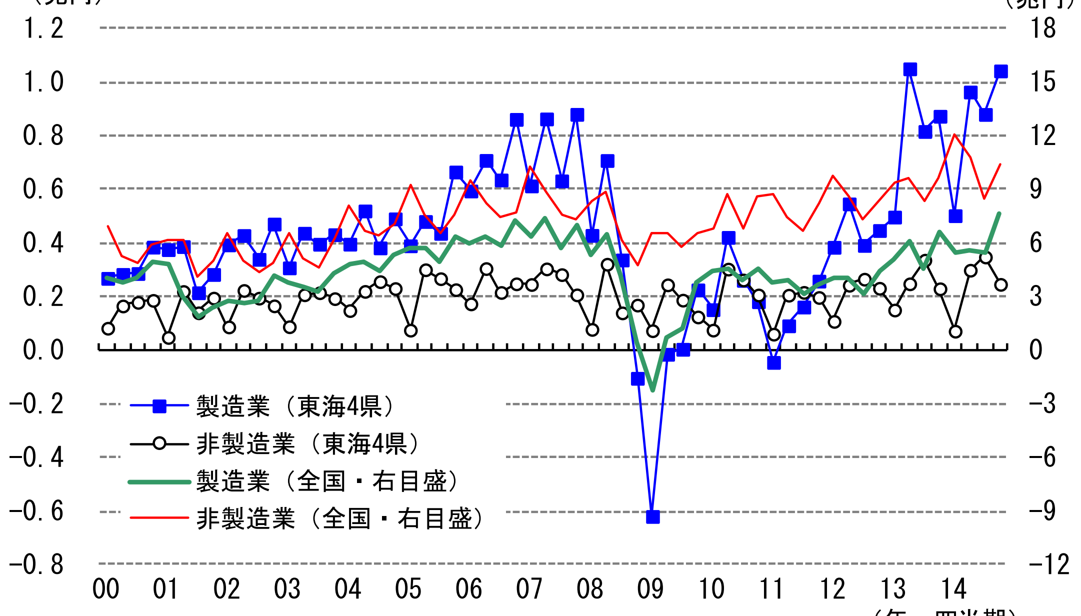
日銀短観（業況判断ＤＩ）



（注1）シャドー部分は内閣府による景気後退期
（注2）2012年4月～11月の景気後退期は当社（調査部）による推定
（注3）調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。
（注4）東海3県=愛知、岐阜、三重。
（出所）日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

○2014年10～12月期の東海4県の企業収益（経常利益、大企業・全産業）は前年同期比で＋16.8%と2四半期連続で増加した。製造業が同＋19.3%と2四半期連続、非製造業は同＋7.1%と3四半期連続で増加した。日銀短観3月調査では、東海3県の経常利益は14年度に製造業同＋4.4%、非製造業同＋16.4%となった後、15年度は製造業では同－0.4%、非製造業で同＋0.4%とほぼ横ばいを見込んでいる。

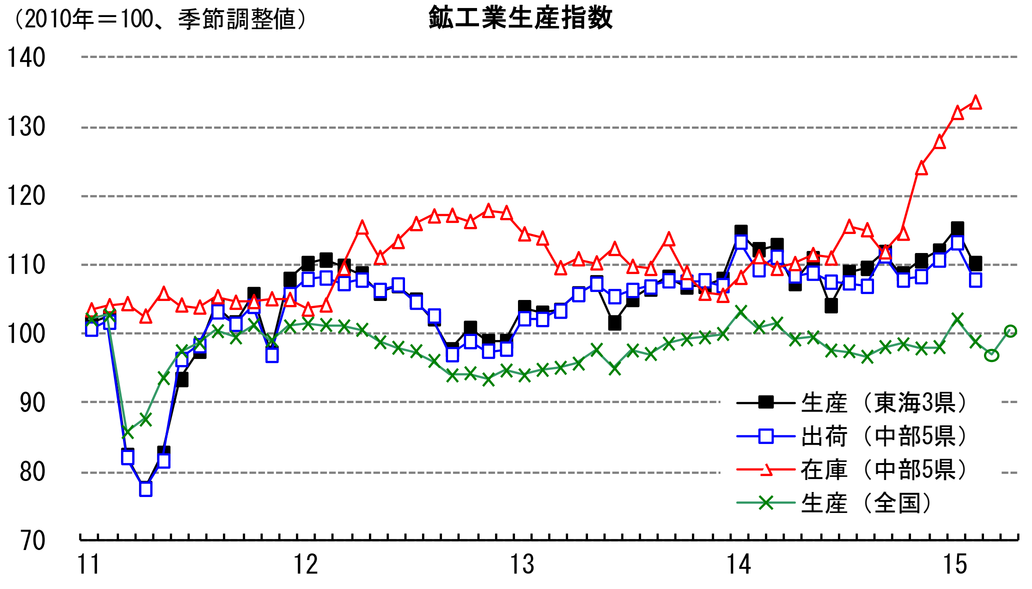
企業収益（経常利益）



（注）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

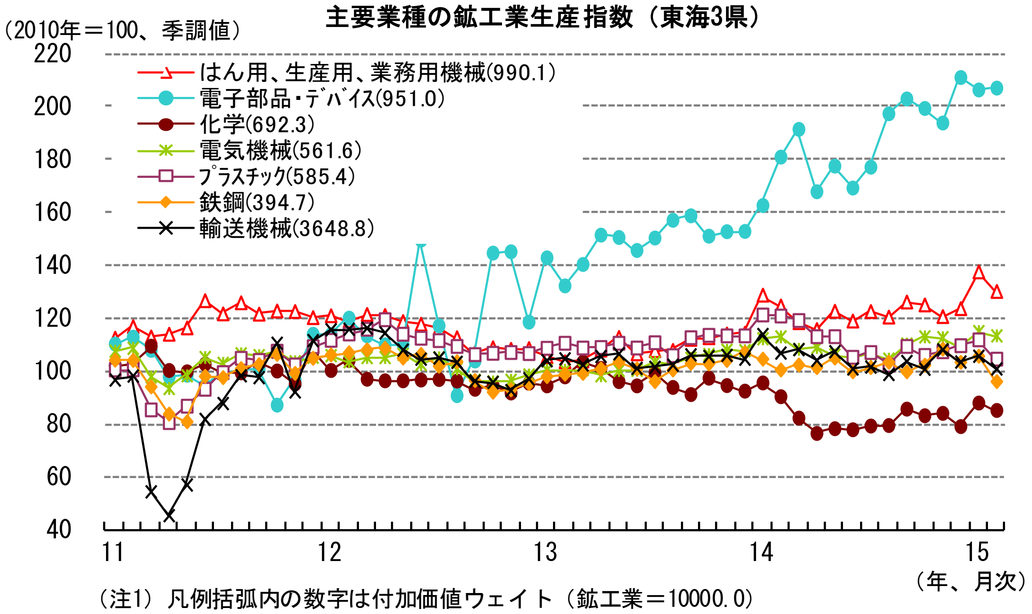
２．生産　～持ち直しが一服している

○2月の東海3県の鉱工業生産指数は、前月比－4.3%と4ヶ月ぶりに減少した。東海3県の生産は、14年6月を底に緩やかに持ち直していたが、足下で一服している。今後の東海地区の生産は、主力の輸送機械の下げ止まりが見込まれる一方、電子部品・デバイスで、出荷の増加を伴いながらとはいえ、在庫が高水準で推移しており、横ばい圏での推移が見込まれる。



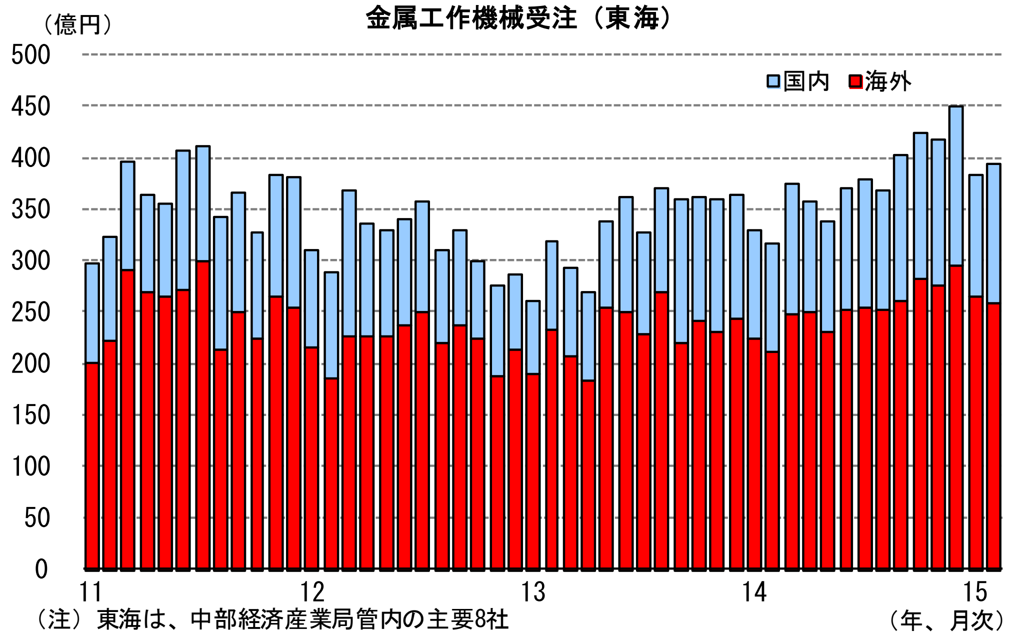
（注1）東海3県＝愛知、岐阜、三重。中部5県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川。
（注2）生産（全国）の「○」は製造工業生産予測結果から試算した予測。

○業種別では、乗用車（前月比－1.9%）は3ヶ月連続で低下したほか、自動車部品（同－7.1%）は2ヶ月ぶりに低下し、輸送用機械全体（同－4.5%）でも2ヶ月ぶりに低下した。また、はん用・生産用・業務用機械（同－5.4%）、電気機械（同－1.4%）なども低下した。一方、電子部品・デバイス（同＋0.3%）は上昇した。



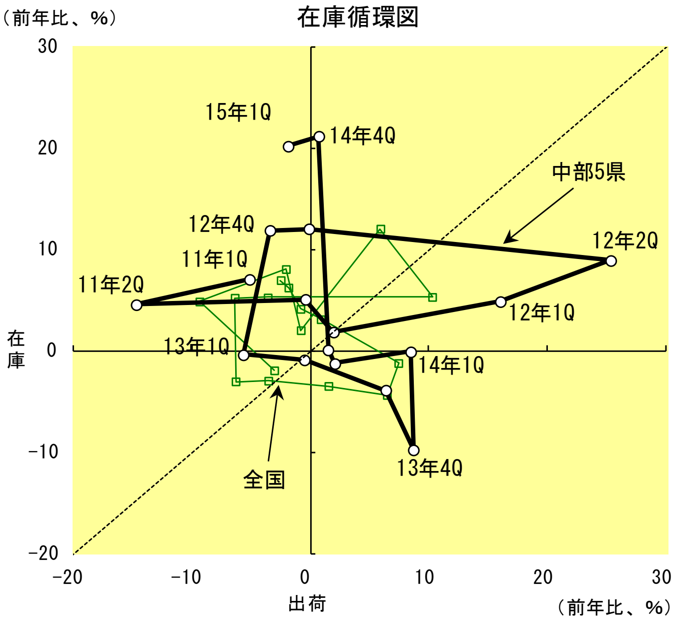
（注1）凡例括弧内の数字は付加価値ウェイト（鉱工業＝10000.0）
（注2）東海3県＝愛知、岐阜、三重。

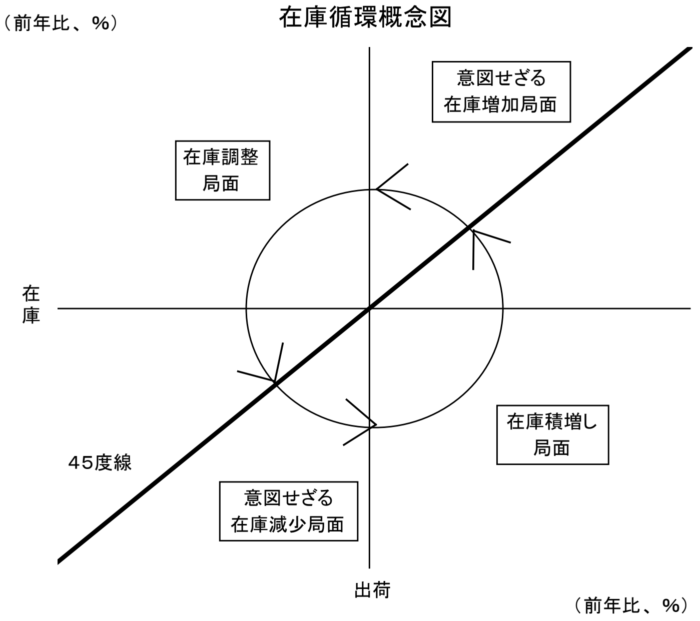
○2月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年同月比＋24.4%と6ヶ月連続で増加した。国内受注は同＋26.9%と19ヶ月連続で増加、海外受注も同＋23.2%と6ヶ月連続で増加した。国別では、米国（同＋9.7%）、中国（同＋129.8%）を含むアジア（同＋54.1%）、欧州向け（同＋12.8%）が増加となった。



（注）東海は、中部経済産業局管内の主要8社
（出所）中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

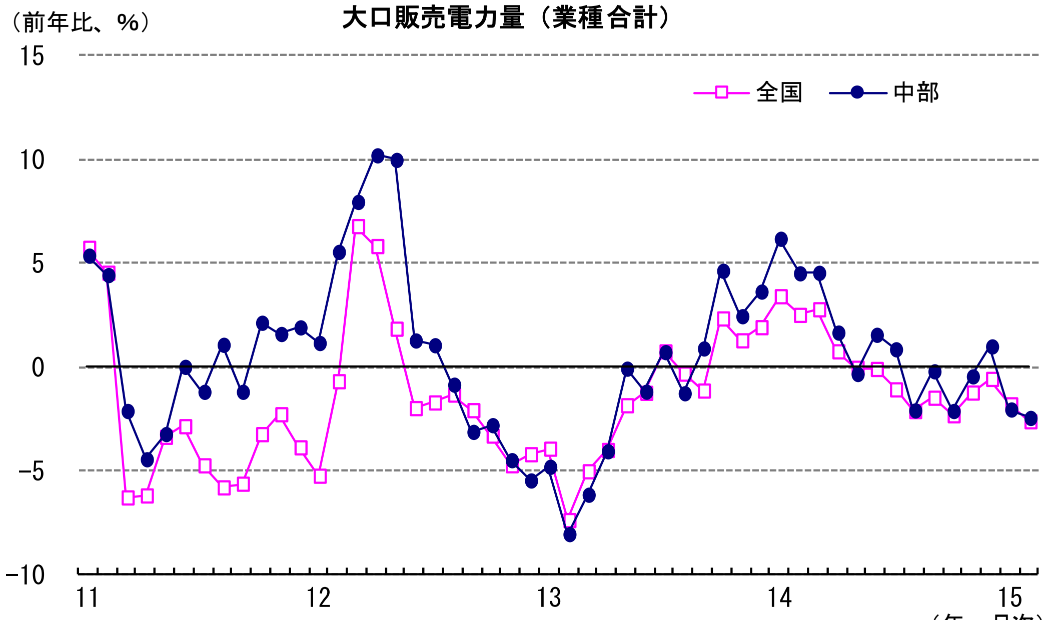
○2月の中部5県の出荷は、前月比－4.8%と4ヶ月ぶりに減少した。食料品、金属製品などで増加したが、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、化学などで減少した。在庫は、同＋1.1%と5ヶ月連続で増加した。鉄鋼、金属製品などで減少したが、はん用・生産用・業務用機械、化学などが増加した。





（注1）数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
（注2）中部5県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川。
（注3）直近15年1Qの出荷は1, 2月平均、在庫は2月の前年比
（出所）経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

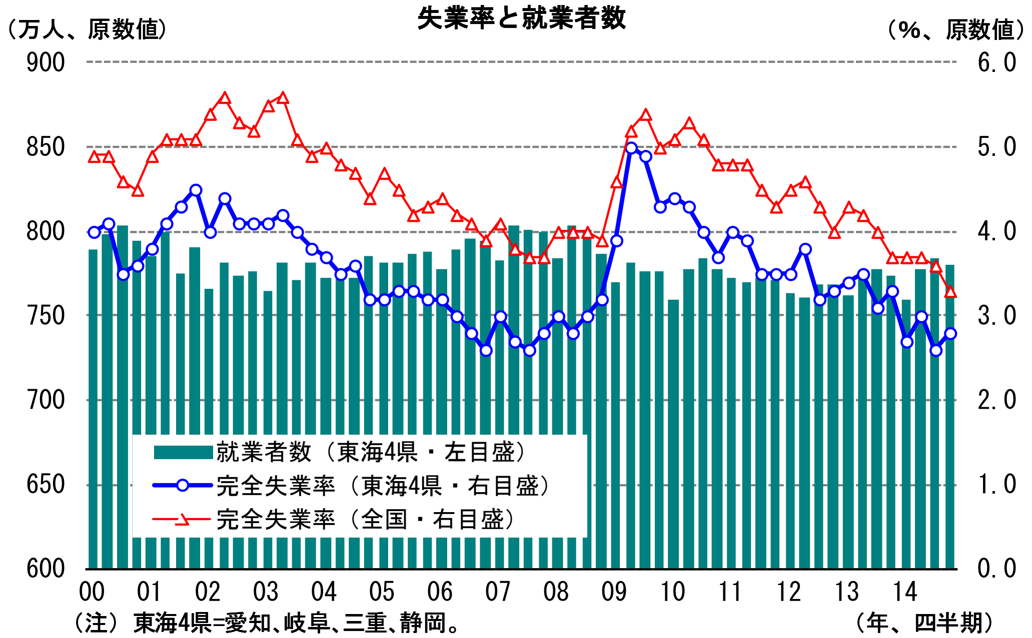
○2月の中部電力管内の大口電力量（契約電力500kw以上）は、前年同月比－2.4％と2ヶ月連続で減少した。化学（同＋11.7％）、非鉄金属（同＋0.2％）などが増加したものの、紙パルプ（同－8.6％）、窯業・土石（同－7.0％）、鉄鋼業（同－10.0％）、自動車などの機械工業（同－0.2％）が減少し、全体で減少となった。



（出所）電気事業連合会「電力需要実績」、中部電力「電力販売実績」

３．雇用　～横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる

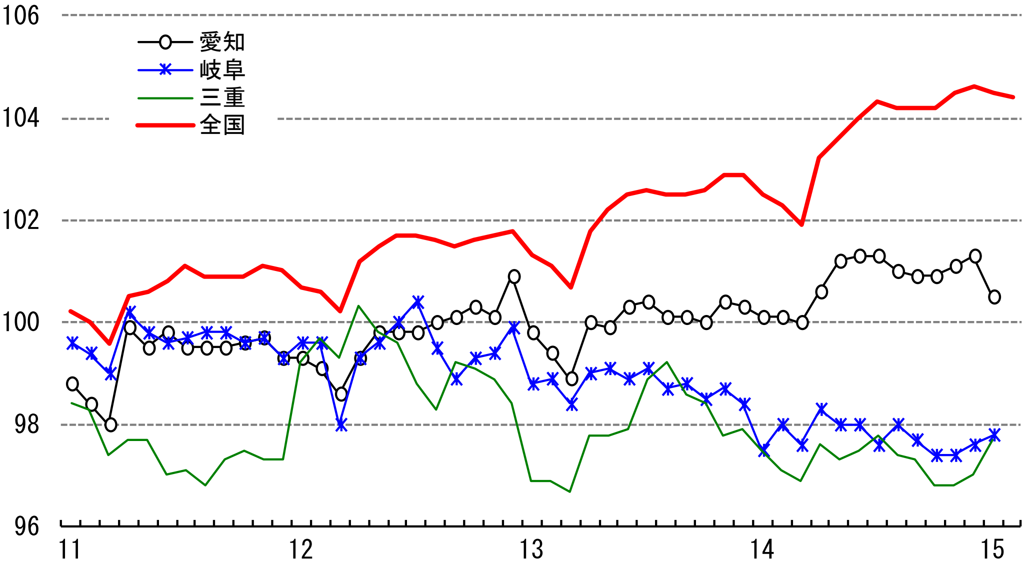
○2014年10～12月期の東海4県の完全失業率は2.8％（前年差－0.5％ポイント）と前年と比べて大きく低下し、全国（3.3％）と比較しても低水準となっている。また、同時期の就業者数は前年差6万人の増加となった。一方、東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いている。愛知県の有効求人倍率は横ばい、新規求人倍率は4ヶ月ぶりに低下した。



（注）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）総務省「労働力調査」

○1月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比＋0.4％と13ヶ月連続で上昇となったが、上昇幅は縮小している。岐阜県は同＋0.3％と22ヶ月ぶりに上昇、三重県も同＋0.2％と10ヶ月ぶりに上昇し、持ち直しの動きがみられるものの、全国（1月：同＋2.0％、2月：同＋2.1％）に比べて弱い動きが続いている。

（2010年=100）　　**常用雇用指数**

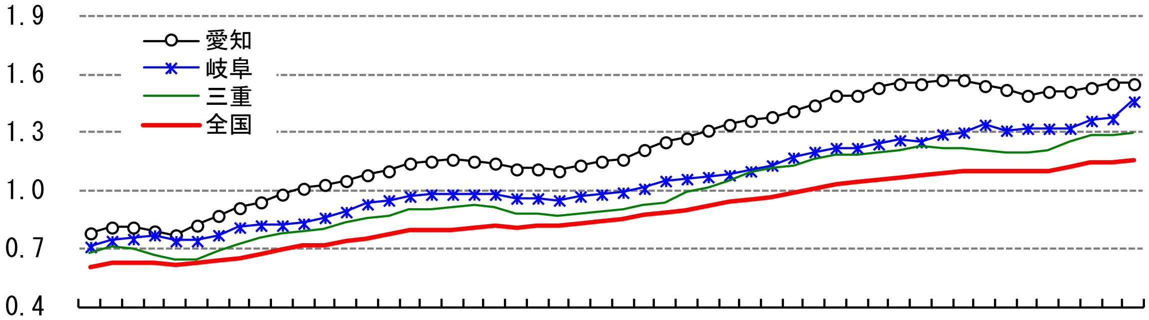


（出所）厚生労働省「毎月勤労統計調査」、各都道府県「毎月勤労統計調査地方調査」　（年、月次）

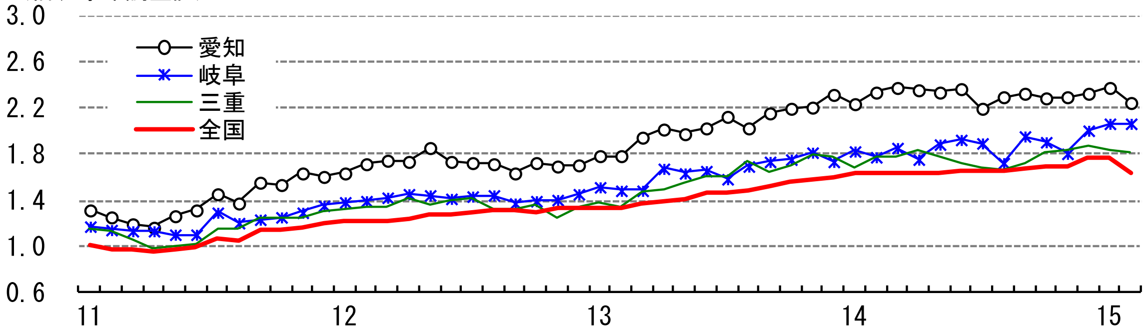
○2 月の東海 3 県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知県が 1.55 倍と前月と同水準となった。岐阜県は 1.46 倍と 3 ヶ月連続で上昇、三重県は 1.30 倍と前月より上昇した。新規求人倍率（同）は、愛知県が 2.25 倍と 4 ヶ月ぶりに大きく低下、岐阜県は 2.07 倍と前月と同水準となった。三重県は 1.81 倍と 2 ヶ月連続で低下した。

有効求人倍率

（倍、季節調整値）



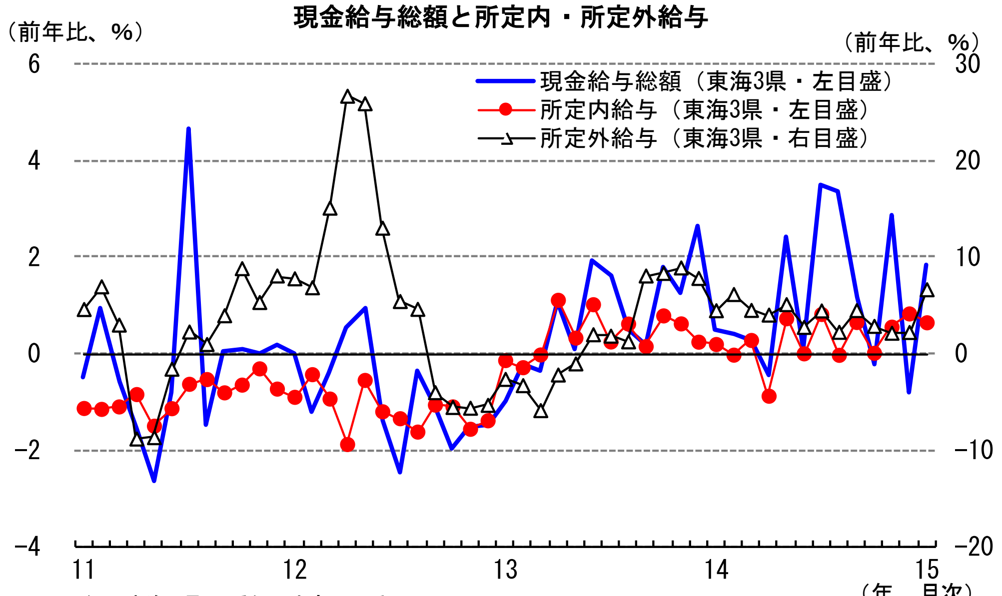
（倍、季節調整値）　　**新規求人倍率**



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」　（年、月次）

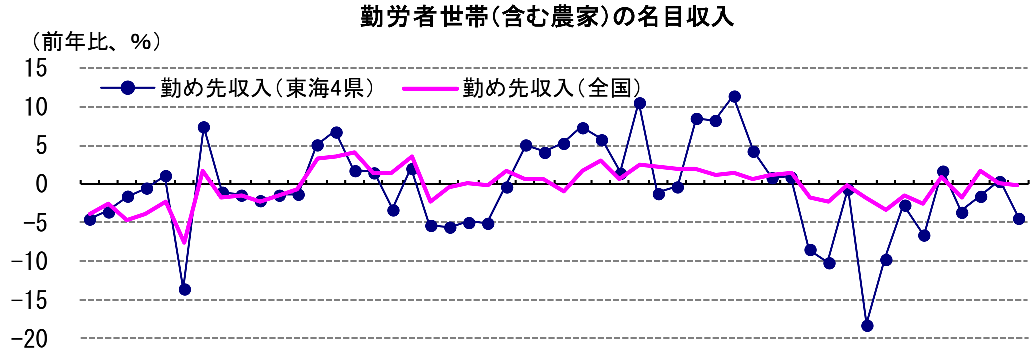
４．賃金　～持ち直している

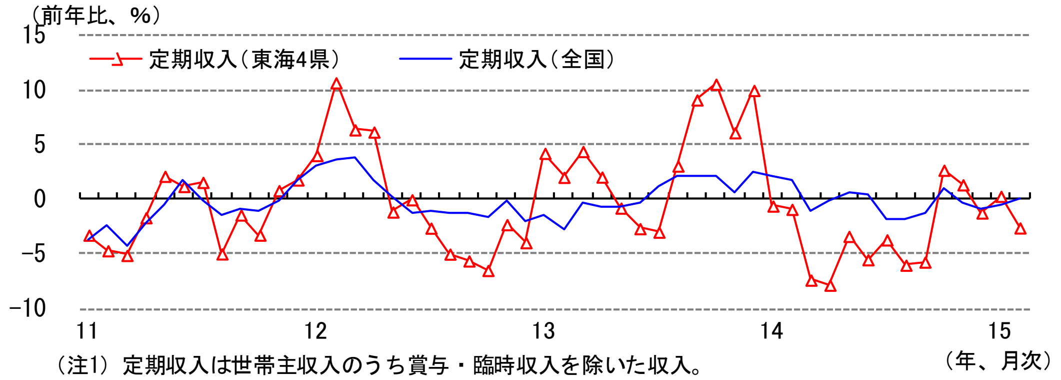
○1月の一人当たり現金給与総額は、前年比＋1.8%と2ヶ月ぶりに増加した。所定外給与が同＋6.7%と20ヶ月連続で増加し、所定内給与も同＋0.6%と3ヶ月連続で増加した。昨年に続き今年も賃上げを実施する企業が多く、所定内給与の増加が続くだろう。また、所定外給与も増加が引き続き見込まれ、賃金は今後も緩やかな持ち直し傾向が続くと見込まれる。



（注）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）各都道府県「毎月勤労統計調査地方調査」

○家計調査によると、2月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の賞与を含む勤め先収入は前年比－4.3%と2ヶ月ぶりに減少した。また、定期収入（世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入）も前年比－2.6%と2ヶ月ぶりに減少した。

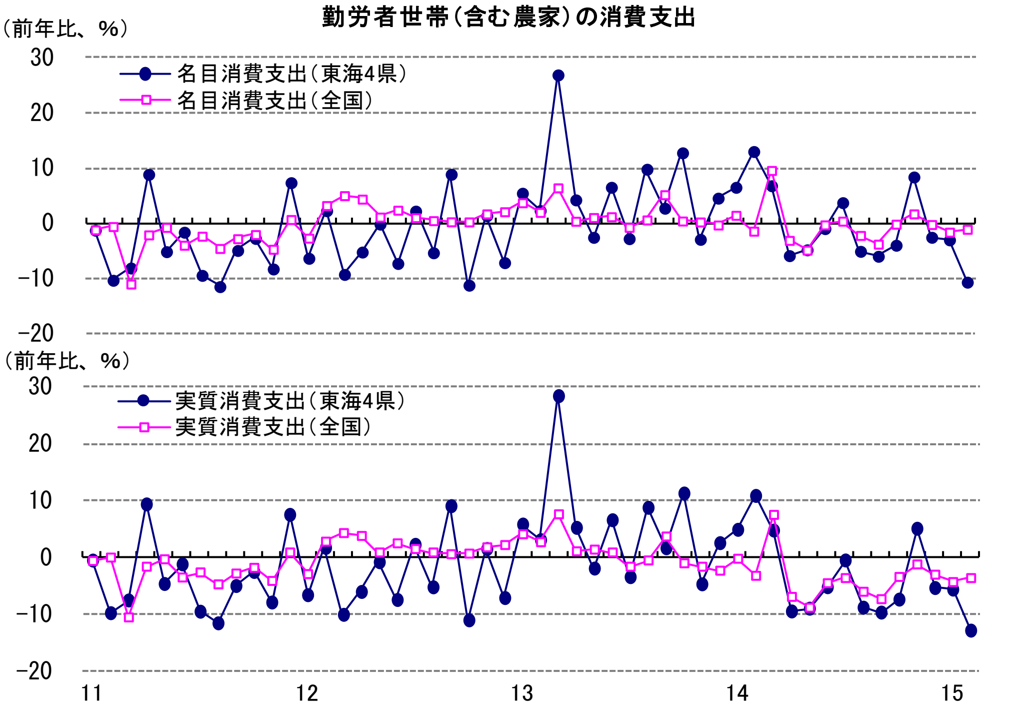




（注1）定期収入は世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入。
（注2）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）総務省「家計調査報告」

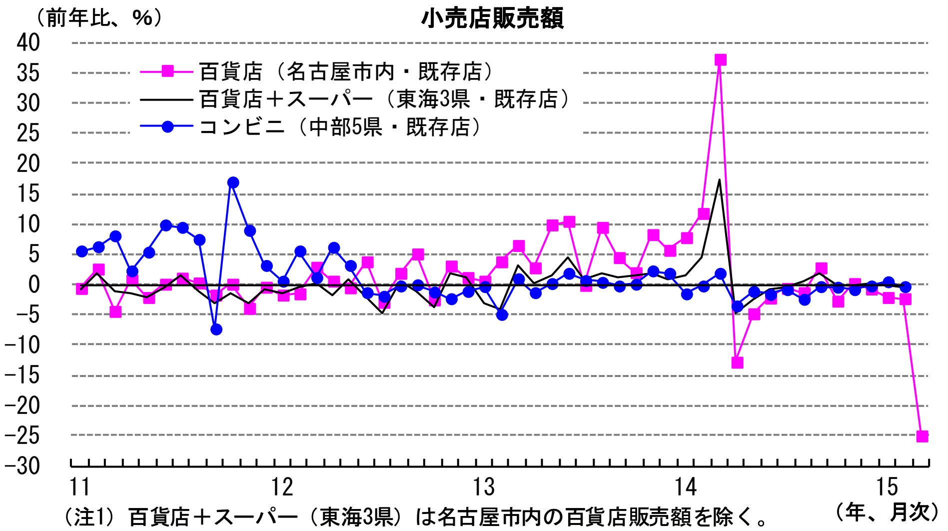
５．個人消費　～駆け込み需要の反動減が一巡したが、横ばい圏で推移

○2月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の消費支出は、名目では前年比－10.6%、実質では同－12.8%と、ともに3ヶ月連続で減少した。個人消費は、駆け込み需要の反動減が一巡した後、横ばい圏で推移している。今後は、賃金が名目で持ち直している中で、物価が落ち着いてきていることから、個人消費は緩やかに持ち直してくると見込まれる。



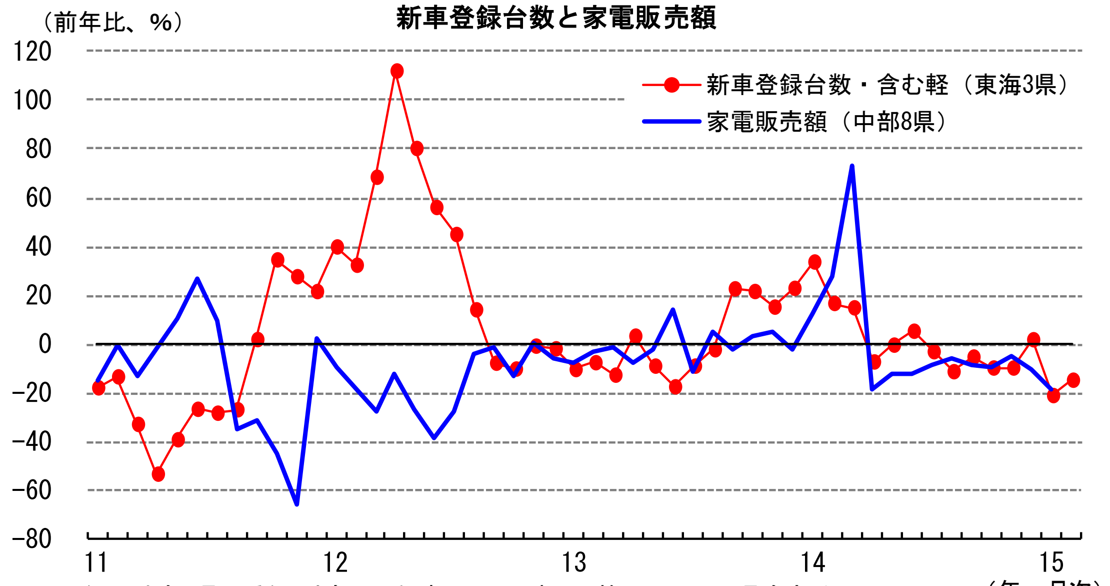
（注1）東海の実質消費支出はＭＵＲＣ試算（注2）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）総務省「家計調査報告」

○3 月の名古屋市内の百貨店販売額は、前年の駆け込みの反動で、前年比－25.0%の大幅減となった。また、2 月の東海 3 県の大型小売店（百貨店＋スーパー、既存店）の販売額は同－0.6%と 2 ヶ月連続で減少した。2 月の中部 5 県のコンビニ販売額（既存店）は、同－0.3%と 2 ヶ月ぶりに減少した。各種小売販売額は、均して見ると、駆け込み需要の反動減から持ち直した後、横ばい圏で推移している。



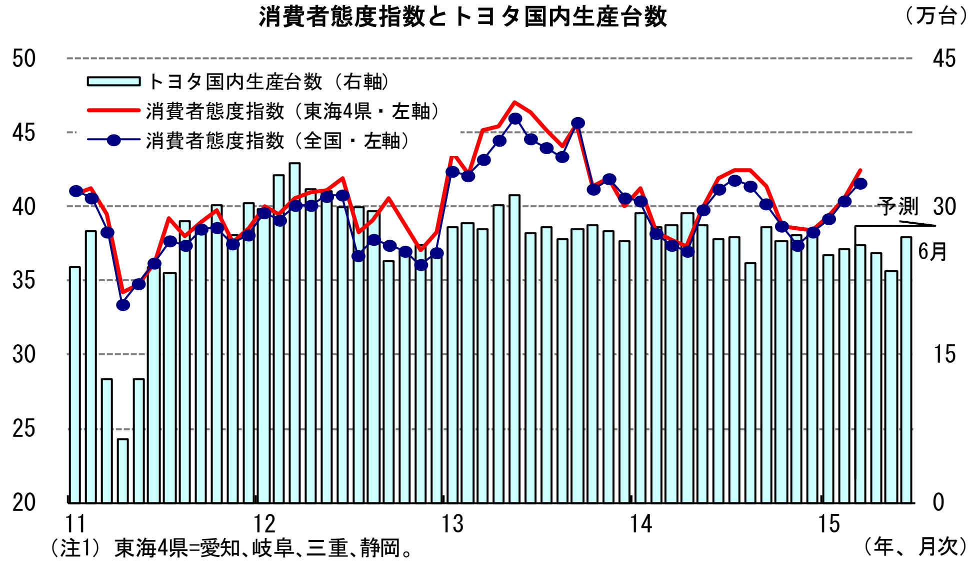
（注1）百貨店＋スーパー（東海3県）は名古屋市内の百貨店販売額を除く。
（注2）中部5県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川。東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」、日本百貨店協会

○2月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比－14.7%と2ヶ月連続で減少した。一方、1月の中部8県の家電販売額は同－19.0%と10ヶ月連続で減少した。前年が消費税率引き上げ前の駆け込み購入により水準が高かったこともあって、前年比での減少幅が拡大している。



（注1）中部8県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、静岡、長野の8県全店ベース。
（注2）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

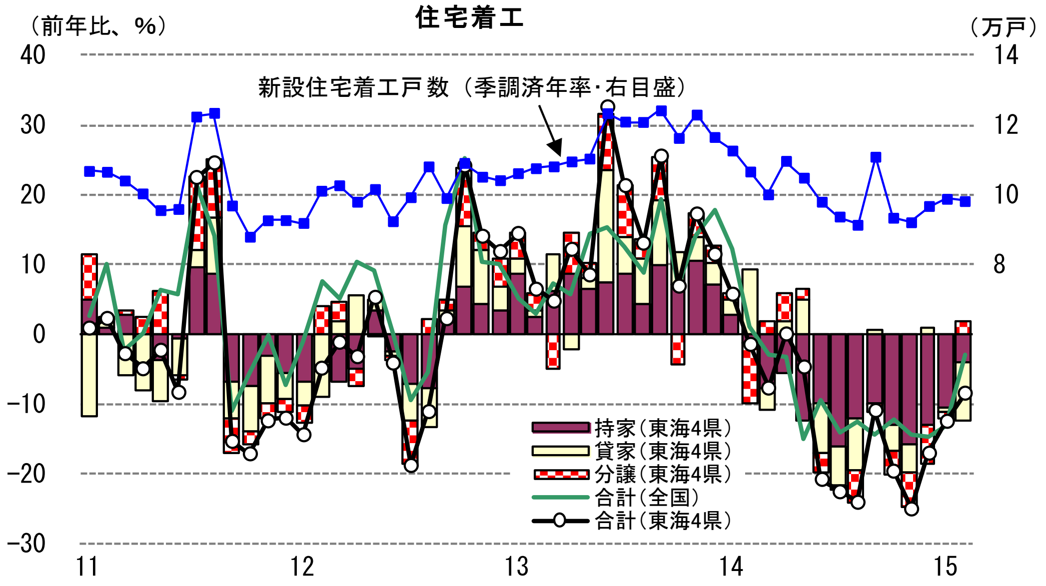
○消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、3月は前月差＋1.9ポイントと3ヶ月連続で上昇した。トヨタの国内生産（季節調整値）が概ね横ばいでの推移が見込まれ、名目賃金が持ち直し物価上昇が緩やかになってきている中、東海の消費者マインドの持ち直し傾向は続くと思われるが、4月以降は、物価上昇への懸念から持ち直しのペースが緩む可能性がある。



（注1）東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
（注2）消費者態度指数は一般世帯、原数値。「暮らし向き」、「収入の増え方」、「雇用環境」及び「耐久消費財の買い時判断」の4項目に関し今後半年間の見通しについて5段階評価で回答してもらう。消費者マインドが改善すれば値が上昇する。
（注3）トヨタ国内生産台数はMURCにて季節調整。
（出所）内閣府「消費動向調査」、トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」

６．住宅投資　～横ばい圏で推移している

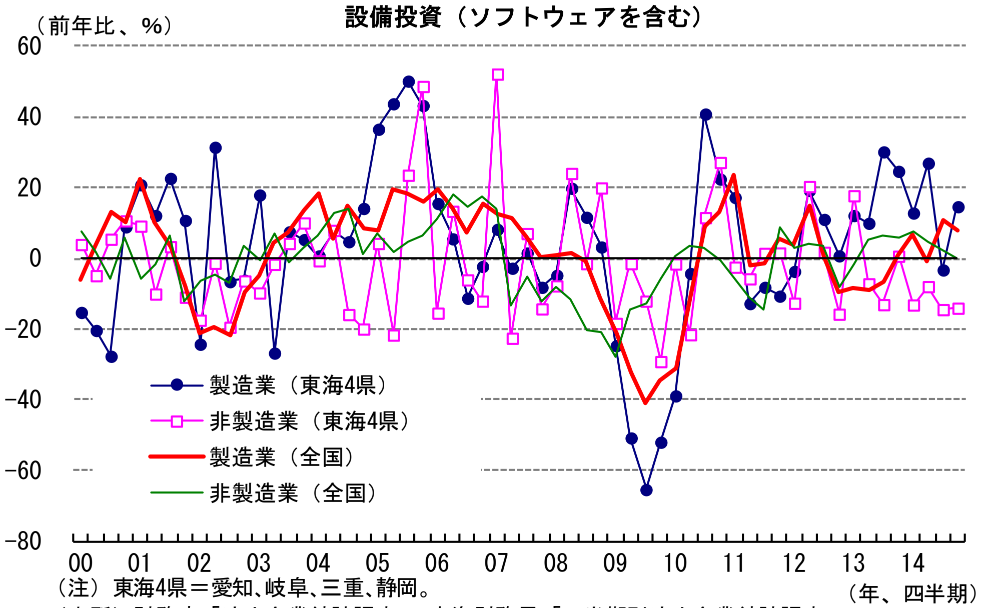
○2月の東海4県の住宅着工戸数（季調済）は、前月比－0.7%と3ヶ月ぶりに減少し、均して見ると横ばいで推移している。前年比では－8.4%（7,651戸）と10ヶ月連続の減少となった。利用関係別の寄与度は、分譲が同＋1.8%、持家が同－4.0%、貸家が同－8.4%となった。東海地区の着工は、駆け込みからの反動減が続いて水準は低下しており、今後も横ばい圏での推移が見込まれる。



（注）東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社試算。
（出所）国土交通省「建設着工統計」

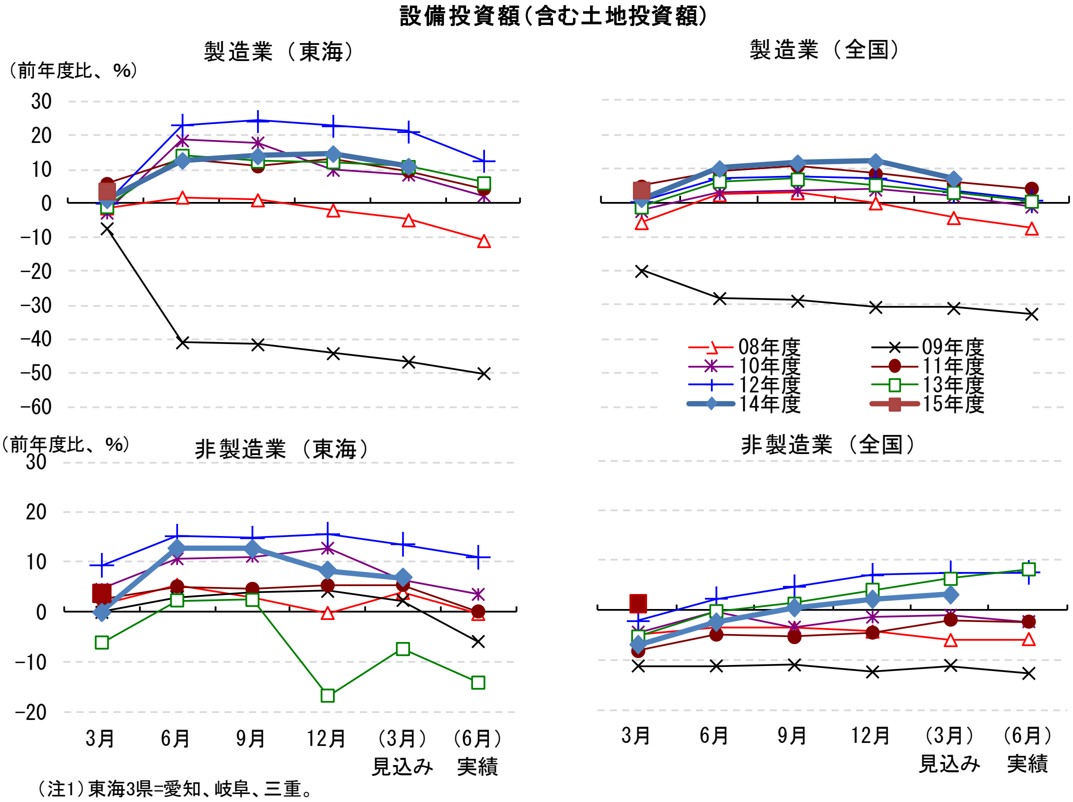
7．設備投資　～横ばい圏で推移しているが、製造業は増加している

○2014年10～12月期の東海4県の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比＋0.6%と、2四半期ぶりに増加した。非製造業は同－13.9%と4四半期連続で減少したが、製造業は同＋14.8%と2四半期ぶりに増加した。東海の大企業の設備投資は、製造業で旺盛である一方、非製造業は抑制的となっており、全体としては横ばい圏で推移している。



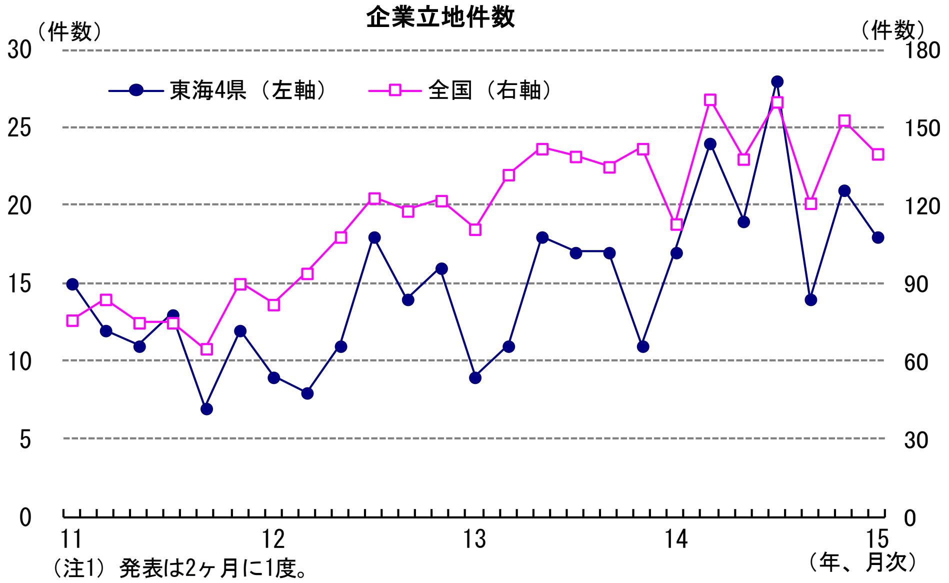
（注）東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。
（出所）財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

○日銀短観3月調査によると、東海3県の14年度設備投資は製造業が前年比＋10.3%、非製造業は同＋10.1%と増加を見込んでいる。また、15年度設備投資計画は製造業が前年比＋4.4%、非製造業は同＋5.7%と引き続き増加を見込んでいる。製造業、非製造業ともに全国と比べて高めの計画となっている。



（注1）東海3県=愛知、岐阜、三重。
（出所）日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

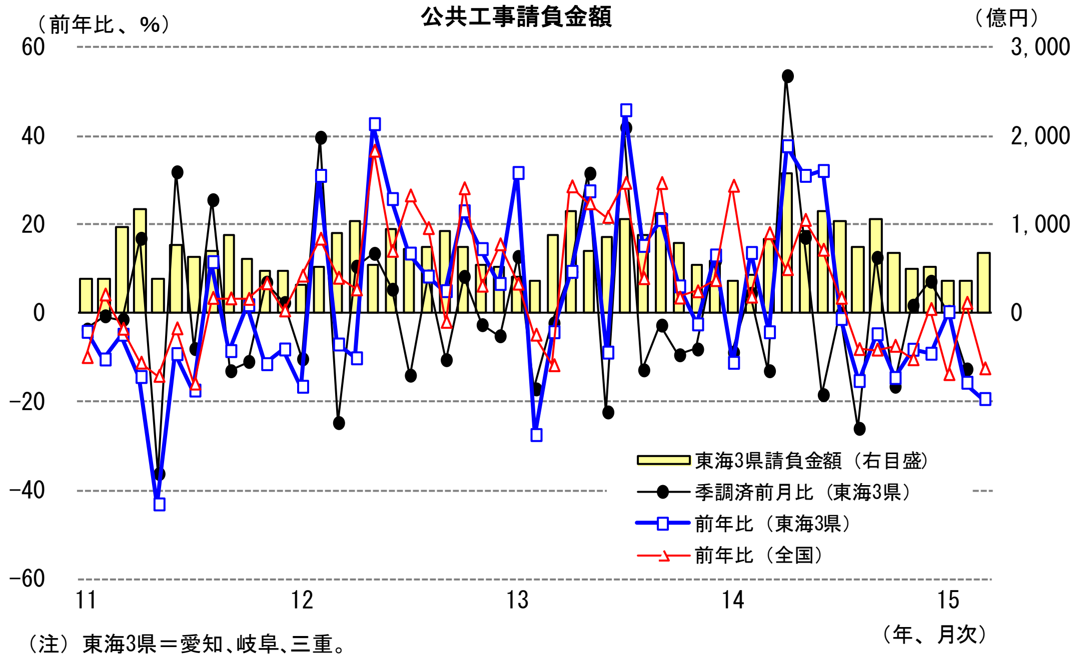
○2014 年 12 月･2015 年 1 月の東海 4 県の企業立地件数は 18 件と、前期（21 件）から 3 件減少し、前年同期（17 件）と比べると 1 件増加した。東海地域の工場立地は、全国同様、前期（10 月・11 月）に増加した後、再び減少に転じたが、比較的高い水準を維持している。



（注1）発表は2ヶ月に1度。
（注2）東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。

８．公共投資　～横ばい圏で推移している

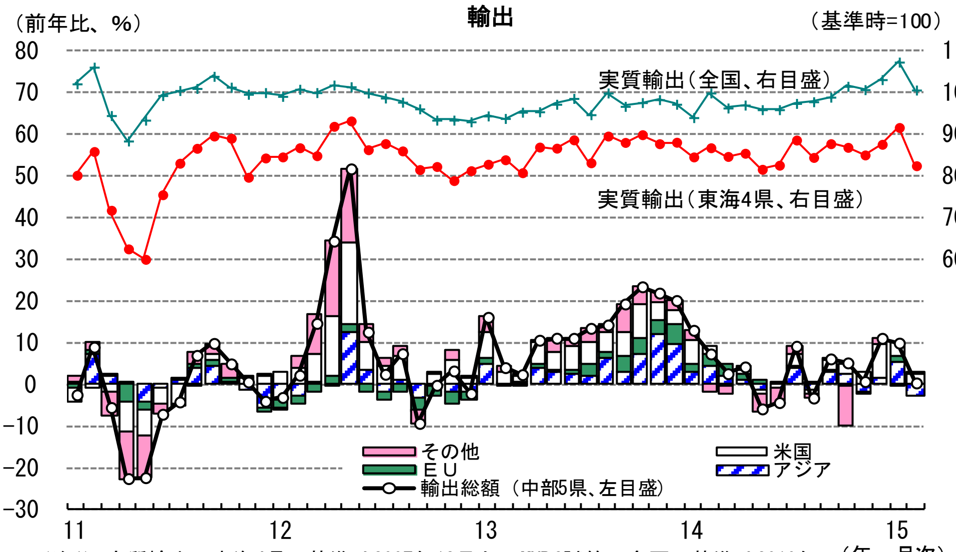
○3月の東海3県の公共工事請負額は、前年比－19.4%の673億円と2ヶ月連続で前年を下回った。発注者別では、国が同－33.1%と4ヶ月連続、地方が同－10.5%と2ヶ月連続で減少した。また、2月の季調済み前月比は－12.7%と4ヶ月ぶりに減少した。公共工事の請負は、消費増税に伴う対策の効果による増加を経て足下では横ばい圏となっており、今後も横ばい推移が見込まれる。



（注）東海3県＝愛知、岐阜、三重。
（出所）日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業会社協会、北海道建設業信用保証(株)
東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

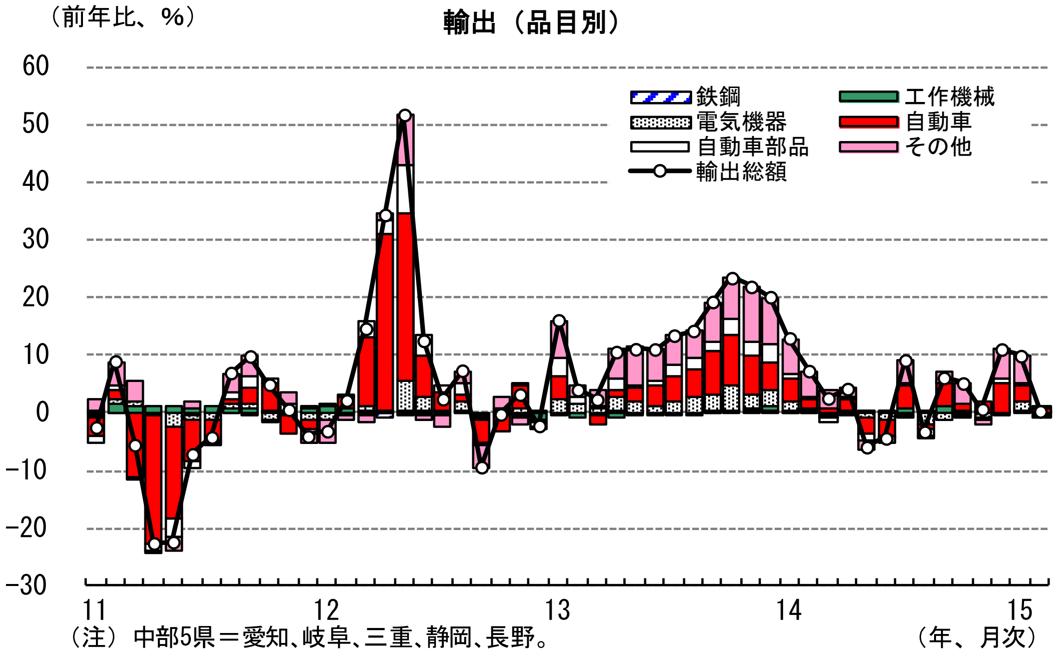
９．輸出入　～2月の輸出は大幅に減少、輸入は持ち直し

○2月の実質輸出（季調済）は、前月比－10.0％と3ヶ月ぶりに減少した。一方、2月の名古屋税関管内の輸出額は前年比＋0.4％と6ヶ月連続で増加したものの、ほぼ横ばいにとどまった。アジア向けが同－7.3％と3ヶ月ぶりに減少したが、米国向けが同＋9.0％と6ヶ月連続、ＥＵ向けが＋1.4％と4ヶ月連続で増加した。海外景気の回復は緩やかであり、輸出は横ばい圏での推移が見込まれる。



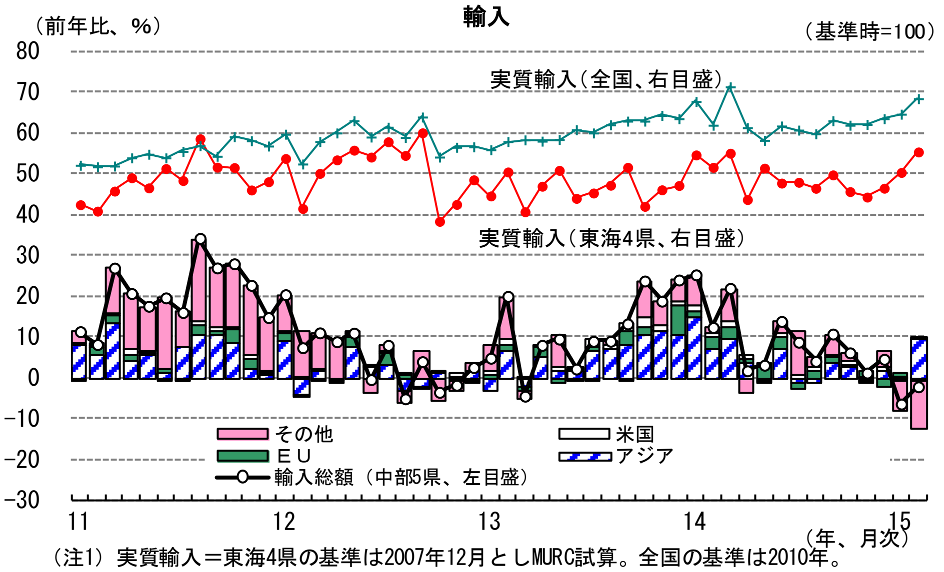
（注1）実質輸出＝東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。
（注2）中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県＝愛知、岐阜、三重、長野。
（出所）財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

○2月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車（前年比＋2.3％）は6ヶ月連続で増加、自動車部品（同＋0.1％）は3ヶ月連続で増加となった。鉄鋼（同＋6.5％）は7ヶ月連続で増加、電気機器（同＋1.4％）は3ヶ月連続で増加した。一方、工作機械（同－3.0％）は2ヶ月ぶりに減少した。



（注）中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
（出所）財務省「貿易統計」

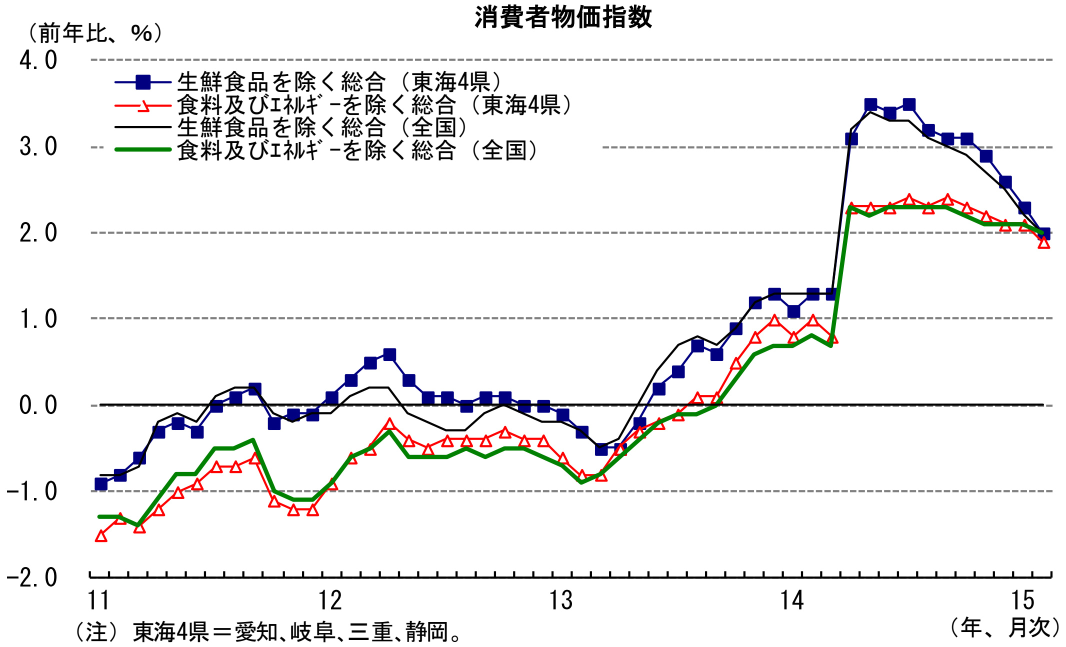
○2月の実質輸入（季調済）は、前月比＋5.0%と3ヶ月連続で増加した。一方､2月の名古屋税関管内の輸入額は前年比－2.1%と2ヶ月連続で減少した。品目別には、原油及び粗油、自動車、石油製品が、地域別にはＥＵ等が減少に寄与した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は緩やかな持ち直し基調での推移が見込まれる。



（注1）実質輸入＝東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。
（注2）中部5県＝愛知､岐阜､三重､静岡､長野。東海4県＝愛知、岐阜、三重、長野。
（出所）財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

10. 物価　～消費者物価は消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化

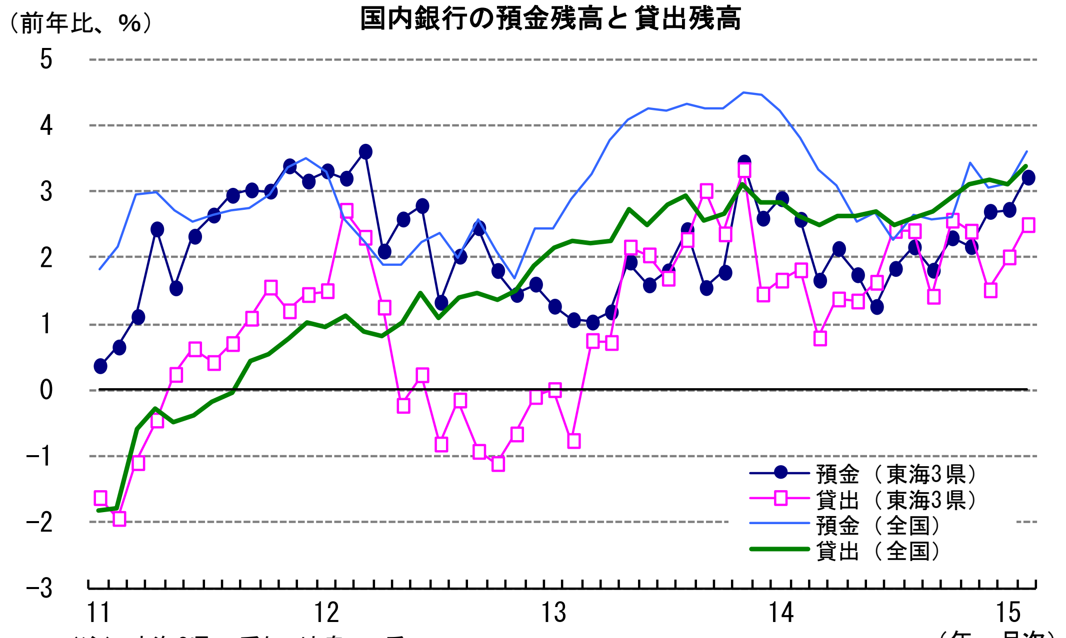
○東海4県の消費者物価は消費税引き上げにより高い伸び率となっているが、エネルギー価格の低下も影響して上昇幅は鈍化してきている。2月は、生鮮食品を除く総合で、前年比＋2.0%と21ヶ月連続の増加となった。食料・エネルギーを除く総合は、同＋1.9%と19ヶ月連続の増加となった。消費者物価は、伸び率が鈍化する中、消費増税の影響一服により、4月以降は横ばい圏となると見込まれる。



（注）東海4県＝愛知､岐阜､三重､静岡。
（出所）総務省「消費者物価指数」

11. 金融　～預金、貸出ともに増加

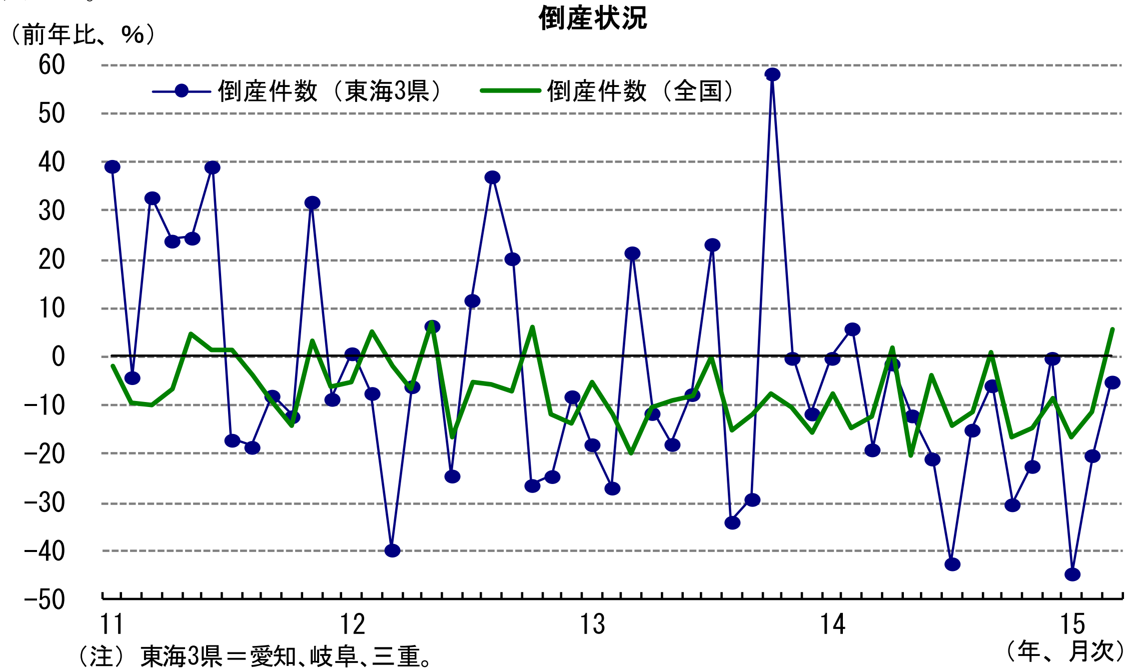
○2 月の東海 3 県の預金残高（国内銀行ベース）は、個人預金が堅調に推移し、前年比＋3.2%と増加が続いている。貸出残高（国内銀行ベース）は、同＋2.5%と 24 ヶ月連続で増加した。日銀名古屋支店では資金需要が幾分持ち直しつつあることが増加の要因とみている。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



（注）東海3県＝愛知､岐阜､三重。
（出所）日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金（国内銀行）」

12. 倒産　～倒産件数は減少、負債総額は増加

○3 月の東海 3 県の倒産件数は前年比－4.9%の 78 件と 3 ヶ月連続で減少した。三重県（同＋150.0%）は 2 ヶ月連続増加し、愛知県（同＋4.1%）は 3 ヶ月ぶりに増加したが、岐阜県（同－41.4%）は 3 ヶ月連続で減少した。一方、3 月の東海 3 県の負債総額は、同＋48.6%の 19 億円と 2 ヶ月連続で前年を上回った。



（注）東海3県＝愛知､岐阜､三重。
（出所）東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	曇り	↗	輸出	全国	↗	曇り	**→**
	東海	↗	曇り	→		東海	**→**	曇り	**→**
	関西	↗	曇り	↗		関西	→	曇り	↗
個人消費	全国	↗	曇り	↗	輸入	全国	↗	曇り	↗
	東海	→	曇り	↗		東海	↗	曇り	↗
	関西	↗	曇り	↗		関西	↗	曇り	↘
住宅投資	全国	→	曇り	→	生産	全国	↗	曇り	**→**
	東海	**→**	曇り	→		東海	**→**	薄日	→
	関西	→	曇り	→		関西	↗	薄日	↗
設備投資	全国	→	曇り	↗	雇用	全国	↗	曇り	→
	東海	→	曇り	↗		東海	→	曇り	→
	関西	**↗**	小雨	**→**		関西	↗	曇り	→
公共投資	全国	→	曇り	→	賃金	全国	↗	雨	↗
	東海	→	曇り	→		東海	↗	曇り	↗
	関西	→	曇り	→		関西	↗	雨	↗

：晴れ　　：薄日　　：曇り　　：小雨　　：雨

（注）１．3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
２．シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
３．全国は4月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		3月のコメント	4月のコメント
1．景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2．生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	一部に弱い動きがみられるが、緩やかに持ち直している	持ち直しが一服している
	関西	緩やかな増加傾向にある	緩やかな増加傾向にある
3．雇用	全国	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動きがみられる
	関西	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
4．賃金	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	持ち直している	持ち直している
5．個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	駆け込み需要の反動減が一巡したが、横ばい圏で推移	駆け込み需要の反動減が一巡したが、横ばい圏で推移
	関西	駆け込み需要の反動減が一巡し、緩やかな持ち直しの動きがみられる	駆け込み需要の反動減が一巡し、緩やかな持ち直しの動きがみられる
6．住宅投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7．設備投資	全国	横ばい	横ばい
	東海	横ばい圏で推移しているが、製造業は増加している	横ばい圏で推移しているが、製造業は増加している
	関西	持ち直している	持ち直している
8．公共投資	全国	横ばい	横ばい
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
9．輸出入	全国	輸出は増加基調、輸入は持ち直している	輸出は増加基調、輸入は持ち直している
	東海	輸出、輸入ともに持ち直しの動き	2月の輸出は大幅に減少、輸入は持ち直し
	関西	2月の輸出は大幅に減少、輸入は大幅に増加	2月の輸出は大幅に減少、輸入は大幅に増加
10．物価	全国	消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化	消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化
	東海	消費者物価は消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化	消費者物価は消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化
	関西	消費者物価は消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化	消費者物価は消費税率引き上げにより上昇後、伸び率は鈍化
11．金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12．倒産	東海	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は減少、負債総額は増加
	関西	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに増加

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11. 金融、12. 倒産を除く）

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。
○現況 ・・・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。
○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）
現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。
○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

― ご利用に際して ―

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ＆コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。